

# 働く自分の姿が 浮かんだら、運命。 スポーツで知った 「人と成長する喜び」を 今、農業で追いかける。



白ハト食品工業株式会社  
なめがた店舗営業本部 主任

## 中野 聖美さん

関西大学 文学部 英米文化専修 2016年卒

1993年生まれ 大阪市出身 大阪市立高校卒  
体験型農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」  
(茨城県行方市)勤務。新鮮野菜のイタリアンレストラン店舗  
営業マネージャー、鹿島アントラーズのスタジアムでの  
イベント売店運営を担当。

「入社3年目でちょっと先輩になり、直属の後輩が成長した!って  
感じるとうれしく思うようになりました」

関西から首都圏へ女性が就職というと、大都会をスーツで颯爽と闊歩するキャリア志向と思われるが、新しい風も吹きはじめています。キツくて汚くてかっこ悪い…とイメージされがちな農業に、チームスポーツと通じる協働の喜び、達成感を見出した元体育会系女子の中野聖美さん。農業をもっと楽しくポジティブなものにしたい!と茨城県の体験型農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」に飛び込んで3年目。自分の軸を保ち、本当にやりたい仕事をつかんだ今を伺いました。

## 「キラキラ女子大生」にはなれなかったけど 「キラキラ農業女子」の今、とてもハッピーです

私の仕事の基本は「なめがたファーマーズヴィレッジ」のレストラン運営です。出退勤の前後には農園でおいもや野菜の収穫をして、それをマルシェやレストランで使う。そんな日常です。その他に鹿島アントラーズのスタジアムでの売店出店も。「おいも株オーナー制度」というのもありまして、その収穫祭、苗植会、イベントの企画とか運営も入ります。

若手でもかなり任せられます。農業ってひとり一つという仕事の仕方じゃない。私はちょっと仕事が多い方ですけど、面白そうと思ったら自分から手を挙げちゃうからなんです。

小さい頃から活発なスポーツ少女でした。関大では創部すぐの女子サッカー部に入り、すっぴんでジャージの「ザ・体育会」な4年間でした。キラキラ茶髪の子大生ファッションや合コンとも無縁。でも社会人になってから「すごく変わった」「本当にサッカーしてたの?」って言われます。農業してるのに(笑)

就活を始めた当初は「やっぱり大手かな?」とも考えました。けど、もともとお客様、人とふれあう仕事の方がいいというのが、どこかにあったみたいで。今、実際レストランなどでお客様やたくさんの仲間と接して働いていると、ああ最初に思っていた通りになったな、という感じです。

# 人と思いやりをもって協働して、結果を出す サッカーで感じたあの幸せを、茨城で見つけてしまった！

就活は食品系に絞って、福利厚生とか環境面より「自分がしたいこと」を最優先と決めて動きました。自分がこれをして楽しいか、働く自分の姿が浮かぶかが、基準でした。

いろんな過程があって勝利に結びつく、大学サッカーでの喜びは、私には何にも代えられないものでした。入社したのは大阪の食品会社で、ここは説明会から「スポーツに似た熱い感じ」があって、あ、仕事をがんばって結果が出た時、サッカーのように周りの人とすごく喜びあえそうだと直感しました。食品会社なのに自社農場を持って「ダサイ」イメージの農業を「キレイ、おしゃれ」とか「かっこいい」にしようという、その発想の転換もすごいと思って。でも私の関心は食品部門で、農業にはこの時点では興味ありませんでした。

今の職場のなめがたファーマーズヴィレッジに出会ったのは入社後の研修の最後でした。田舎だし、この配属だけは絶対イヤだ〜と思いながら実際来てみたら、一転この仲間に入りたくなりました。「あ、農業ってこんな身近で、しんどいことだけじゃないな」と肌で感じたし、何より先輩たちが、農業を素敵にしようと本気でがんばっていて。自分が一緒にがんばっている姿が浮かんできて、決定でした。

親からは猛反対でした。「そんなに？」って思うくらい。特に茨城はまだ風評被害があったから「絶対に行かないで」っ



て。電話で大バトルしました。でも最後は好きにというか「がんばってみたら」と。説得というより「本気が伝わるか」だったと思います。今は畑のおいものお菓子を喜んでくれます。

「内定が出て、親が反対で…」って、特に女性はありませんよね。首都圏で働くって、出身地を出ていいほどのやりがいを感じるかです。私も、親元を離れるような就職ってどうなん？という方でした。けど、その懸念を超えるほどのやりがいを感じた瞬間、出て活躍したい！という一心になりました。私は「自分のしたいこと」でここを選んで本当によかった。だから今の就活生にはやっぱり「自分に正直に、やりたいことを大切に」と言いたいです。いろいろ気になるでしょうけど。

## 自分を確かめたい人は、飛び出してみたら？ 言葉にならない可能性こそ、東京で働く価値だから



関東の方から眺めると、大阪と質が全然違う「発展」を東京に感じます。今の日本の最先端で活躍してみたいと思う人や、私みたいな自分のやりがいを重視するタイプは、大阪から外に出てバリバリやってみたいと思うんじゃないですか。大阪でもバリバリできると思うんですけど、やっぱり身を置いてみると東京はスケールが違って、可能性を秘めている感じがするんです…うまく言えないんですけど。

女子で東京で就活する、暮らすという人へのアドバイスは「東京に染まりきらず、飲まれるな」ですね。関西らしさをどんどん出して、周りの人を巻き込んじゃえって思います。

大阪から出てきて嫌な目に遭ったり、困ったりしたことはないですね。ノリツッコミが通じなかった時「あ、今ボケたのにな」ってちょっと哀しくなるくらいで(笑)



## 中野さんのある1日

- 7:30 起床、食事
  - 前夜コンビニで購入したパンで軽くすませる
- 8:30 出社
  - 社員寮からは車で2分
  - 朝礼での発表準備
- 9:00 全社朝礼
  - 8拠点がテレビ回線につながる。今日は売上を発表（東京、大阪、行方、宮崎、福島、ハワイ、名古屋）
- 10:00 店舗朝礼
  - レストランの責任者として予約、伝達事項、欠員を共有
- 14:30 途中売上確認
- 16:00 農場で収穫作業
  - 秋はさつまいも掘り、他は野菜の収穫
- 18:00 退社
  - 遅番スタッフと交代（店は22時まで）
- 19:00 買い物～食事支度
- 20:30 夕食
  - 得意のハンバーグをシェアして寮の人とワイワイ
- 21:30 入浴
- 23:30 就寝

学んで、遊んで、食べる。  
「農」をおしゃれに楽しむ  
体験型農業テーマパーク

### なめがたファーマーズヴィレッジ

おいもの収穫や稲刈りをはじめ、1日遊べる農業体験がいっぱい。秋、自分の手でお米を収穫して、その場で炊きたてをハフハフほおぼる幸せは格別です。レストランでは多彩な種類が楽しめるピザをはじめ、野菜たっぷりの新鮮ビュッフェが大好評。

<http://www.namegata-fv.jp>



## お店の人を超えた「ファン」とのつながり 何気ない訪れに、心が温められます

鹿島アントラーズのスタジアムで知り合った人が、ファーマーズヴィレッジのレストランに来てくれたり、レストランに来てくれた人がスタジアムで私が出している売店に顔を出してくれたりすることがあるんです。店じゃなくて、私に対して来てくれる。片手ぐらいの人数ですけど、すごくありがたいですね。

会社の方針の中にも「ファンを増やそう」というのがあって、それは単なるお店の人じゃなく、個人的なつながりもある間柄って、もっと笑顔や幸せがプラスされていくからかなと思うんです。実際私が感じるこの「ファン」とのつながりはすごく大切に温かくて、この仕事をやってよかったって感じます。

# 3年目の夢は、叶えるために見る！ 自分の力でファーマーズヴィレッジを盛り上げたい

3年目に入って、会社で「こういうことしていききたい」とかも考えるようになりました。

まず人をもっとたくさん育てて、私がいなくても、しっかり現場をやっていけるようにしたいですね。

今は後輩を二人みています。会社として地元雇用にも力を入れているので、研修生の方もおられます。早く正社員になれるよう、自分より年上の方を私たちが導いていかないとはいけません。責任重大ですね。

あと、そろそろファーマーズヴィレッジ全体の未来のことに関わって、もっと考えていきたいですね。今、結構テレビとかで取り上げられててお客様は来ますが、もっと集客し売り上げを伸ばすするには、新しいアイデアが必要だから。それと、私はサッカーに格別の思いもあるので、スタジアムの

売店でご縁がある鹿島アントラーズさんとももっとつながりを深めたいです。いつかオフィシャルスポンサーとして、ユニフォームにファーマーズヴィレッジのマークを載せたいですね！



## 「あなたにとって関西大学とは？」

うちの社長が関大の経済学部出身なので、私は校友会の方々をファーマーズヴィレッジにご案内したり、社の広報活動を兼ねて関大東京センターのイベントにもよく参加しています。そういう時には「関大OGが関東でもこんな風がんばってます」って、しっかりお伝えしなきゃと思うんですね。私は関大で体育会のサッカー部に入って、「人と成長する」ために必要なものをたくさん教わりました。礼儀、

人を思いやること、「最後は仲間のために走る」こと。そうやっている人々とたくさん関わって、考え方も気持ちも変化した結果、今の自分があると思っています。

「人と成長する幸せ」を関大で知ることがなかったら、今、茨城でワクワク農業してる私はありえません。

私にとって関西大学は「人生を変えてくれた場所」ですね！

(撮影・取材：関西大学東京センターにて)



### KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介します特集です。

◀ 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをする事。時には取材にも参加します。



### 関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671  
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式Twitter



公式Facebook